

情報通信審議会 情報通信政策部会
新事業創出戦略委員会・研究開発戦略委員会
第11回会合（合同開催）議事録

1 日時 平成24年7月5日（木） 10:00～12:00

2 場所 総務省第1特別会議室（中央合同庁舎2号館8階）

3 出席者

(1) 構成員（敬称略）

【新事業創出戦略委員会】

新美 育文（主査）、岩浪 剛太、太田 清久、神門 典子、佐々木 俊尚、
野原 佐和子、野村 敦子、三膳 孝通、村上 輝康、森川 博之、吉川 尚宏

【研究開発戦略委員会】

安田 浩（主査）、荒川 薫（主査代理）、片山泰祥、上條 由紀子、久保田 啓一、
近藤 則子、関口 和一、高橋 伸子、津田 俊隆、鶴田 雅明、戸井田 園子、
富永 昌彦、野原 佐和子（再掲）、平田 康夫、三輪 真、弓削 哲也

(2) 総務省

利根川情報通信国際戦略局長、久保田官房総括審議官

(3) 事務局

山田情報通信国際戦略局参事官、渡辺情報通信政策課長、中村融合戦略企画官、
岡野技術政策課長、山口技術政策課統括補佐

4 議題

(1) 意見募集結果について

(2) 報告書（案）について

(3) 自由討議

(4) その他

5 議事録

【新美主査】 それでは、時間も参りましたので、ただいまから新事業創出戦略委員会・研究開発戦略委員会の第11回会合を開催させていただきます。本日も両委員会の合同開催ということになります。

皆様、暑い中、しかもご多用中ということにもかかわらず、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日は両委員会の取りまとめとなるICT総合戦略案について、ご議論をいただく予定でございます。

それでは、事務局より本日の資料の確認をお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】 本日の配付資料でございます。お手元の議事次第の下に、資料11-1から11-4まで、4種類の資料がございます。

過不足等ございましたら、お申しつけいただければと思います。以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。

それでは、皆様、特に過不足ございませんでしょうか。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。きょうの議題は既に議事次第にあります。初めに、事務局から6月2日から7月1日までの間募集していた報告書（案）に対する意見募集の結果について、ご報告をいただきたいと思います。そして、これに続きまして、村上座長から意見募集の結果等を踏まえて、「2020年頃に向けたICT総合戦略（案）」についてご説明をいただきたいと思っています。その後、自由討議をしていただいて、闊達なご議論を交換していただければというふうに考えております。

それでは、初めに事務局からご報告をお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】 それでは、お手元の資料11-1に基づきまして、報告書（案）に対します意見募集の結果につきまして、ご説明をさせていただければと思います。

おめくりいただきまして1ページ目でございます。意見募集でございますが、6月2日から7月1日まで報告書（案）に対する意見募集をさせていただきましたところ、21者の方々から42件のご意見をちょうだいしたというところでございます。21者の意見提出者の方々でございますが、そちらにございますとおり17者の民間事業者等の方々、それから、個人の方々、4者からちょうだいしたというところでございます。

その次の2ページ目からちょうだいしたご意見とそれに対する考え方の案ということで簡単にご説明させていただければと思います。

まず、2ページ目でございます。意見番号1から3までございますが、テレビ局からご意見をちょうだいしたところでございます。関連性の高いものかと思われまますので、まとめてご紹介をさせていただければと思います。

まず初めに意見番号1といたしまして、特にコンテンツの流通、オープンなプラットフォーム環境の構築、あるいは知の高機能アーカイブ化といったコンテンツ関連の部分についてでございますが、伝統的なコンテンツ産業構造が疲弊しないような特段の配慮が必要ということで、コンテンツの拡大再生産が図れるよう、クリエイター等にきちんとした対価の還元が行われる環境整備を図る必要があるというようなご意見をちょうだいしてございます。

また、2番目のご意見でございますが、知のアーカイブ化ということに関しましては、関係者を交えた慎重な議論が必要だというようなご意見をちょうだいしてございます。

さらに3番目でございます。こういったコンテンツ・アプリケーションの創発に関連いたしまして、オープンなプラットフォーム環境の実現、あるいは知の高機能アーカイブ化の実現といった推進策における放送コンテンツの利活用にあたって、適正な利活用によるコンテンツ市場の活性化という観点からの取り組みが重要というようなご意見をちょうだいしてございます。

それから、次の3ページ目でございます。意見番号4番、5番も関連するものでございますので、あわせてご紹介をさせていただきます。同じくテレビ局からでございますが、コンテンツ流通に関してオープンな環境に伴うデメリットが生じることのないよう十分留意する必要があるというようなご意見でございます。さらに放送番組のアーカイブ化にあたっては、取材活動に及ぼす影響や人権、著作権等への配慮が必要であり、慎重な議論を望むということでございます。

以上、意見番号1から5番まで、特にテレビ局からちょうだいしたご意見でございますが、いずれも著作権あるいはプライバシーといったような関連の記述の部分かと思われまます。これらのご意見に対しましては、右側でございますが、これらのオープンなプラットフォーム環境でのコンテンツ流通や知の高機能アーカイブ化推進にあたっては、コンテンツの拡大再生産が図れるような環境整備やプライバシー・著作権等への配慮も重要であるといったような記述を追加させていただくというような対応でいかかかと考えておるところでございます。

それから、ちょうだいしたご意見、3ページ目、6番ということで、特にこれはインフ

ラ整備と申しますか、災害に強い重層的なネットワークの構築といったような部分の記述に対してでございます。重層的ネットワークの整備等におきまして、耐災害性、広域性等を特徴に持つ衛星通信の活用も考慮の上ということで、特に衛星通信というような文言につきましても、この災害に強いネットワーク実現の上で必要なツールというようなことをごさしまして、衛星通信も明記するようというご意見もちょうだいしているところでございます。

ご意見のとおり、こういった重層的ネットワークの構築の手段として、衛星通信の重要性等も認識されているところでございますので、いただいたご意見を踏まえまして、これまで無線LANといったことを例示的に挙げてございましたが、あわせて衛星通信というようなこともキーワードとして追加をさせていただくという対応をさせていただいてはかがかと思えます。

それから、4ページ目でございます。意見番号7といたしまして、自治体のほうからご意見をちょうだいしてございます。特にアクティブライフといいますか、サービス全般に関連する部分でございます。防災、医療、教育、環境等における新たなICT利活用モデルといったような記述がございましたが、特にこういった関連といたしまして、自治体による防災・緊急関連情報を迅速、円滑かつ確実に伝達するための情報通信基盤の整備を推進というご意見を追加するようというコメントをちょうだいしてございます。東日本大震災を踏まえまして、こういった自治体によるインフラ整備の重要性も言われているところでございますので、ちょうだいしたご意見を踏まえまして、当該部分に「・自治体による、防災・緊急関連情報を迅速、円滑かつ確実に伝達するための情報通信基盤の整備を推進」というようなキーワードも追加をさせていただくということでいかがかと思えます。

それから、その次、意見番号8番目でございます。特に人材の育成確保といったような部分に関連する記述でございます。情報通信端末といったハード面での環境整備のみならず、その環境を生かすためにICT関連の支援要員の育成といった運用面にも十分配慮し、行政や産業で一体となって積極的に施策を推進することを提案しますということでございまして、特にこういったICTの戦略、推進に当たっての中心になるような人材はもちろんでございますが、そういったようなメインとなる人材に加えまして、それをサポートするような要員、そういった運用面での配慮というご意見もちょうだいしておるところでございます。

当然、グローバルにこれから活躍できるような人材の育成というような観点での記述はこれまでもさせておるようなところでございますが、それをサポートする人々、体制整備というようなことも重要性もございますので、右側でございますとおり、これらの人材育成、環境整備等の施策推進に当たっては、これらの人材をサポートする要員の育成・確保等にも配慮することが重要であるというような記述を追加させていただいてはどうかと考えているところでございます。

それから、その次、5ページ目でございます。いただいたご意見9番目、個人の方からちょうだいしてございますが、幾つかご意見をいただいてございます。その中でも特に防災の大切さとともに、限界も学んだはずと、減災という言葉が加えられないかというようなご意見をいただいてございます。

さらに、高齢社会対応システムというような言葉を使っている部分がございますが、こういった言葉自体、少子高齢社会の一部しか対応していない表現と見えるというようなご意見、さらにセキュリティ、プライバシーの保護への言及が弱いというようなご指摘、オープンガバメントをトピックとして取り上げてはどうかというようなこと、さらに、Active ICT JAPANというようなキーワードにつきまして、ICTと自助・共助・公助の融合こそ、アクティブICTの原点になるというようなご意見をちょうだいしてございます。

特に、この中で減災につきましても、ご指摘のとおり重要性、認識されているところでございますので、防災というような記述をしていた部分につきまして、防災・減災という書きぶりに修正させていただくことでいかがかと思えます。さらに、高齢社会対応システムという部分につきましても、少子高齢社会対応システムというような記述に修正させていただくという対応でいかがかと思えます。

また、さらにセキュリティ、プライバシーですとかオープンガバメントといったトピックにつきましては、既に記述させていただいている部分がございますので、その部分を改めてご紹介をさせていただくことでいかがかと思えます。

それから、5ページ目、ご意見10番目、11番目以降につきましては、基本的にはこれまでの記述、報告書（案）につきまして賛同いただけているようなご意見をちょうだいしておるのかなという認識でございます。その中で特に今後の政策推進に当たりまして、具体的に留意すべき点といったことをあわせてご指摘いただいているものが幾つかあるかと思えます。

10番目、11番目でございますが、特にこのリッチコンテンツ、コンテンツ戦略の関

連の部分でございますが、高精細、高臨場感なリッチコンテンツを製作・利活用できる環境の実現につきましては、今後の具体的な進め方ということで、地上放送、衛星放送など既存メディアとバランスのとれた政策が必要と考えるというようなご意見もございます。

さらに4K、8Kの確立に関しまして、映像サービスのビジネスモデルは広告モデル、有料モデルの双方のサービス実現を考慮した政策が必要と考えるというご意見でございます。

基本的にコンテンツ戦略の関連の部分の記述で、ある程度カバーできているのかなというふうに考えてございますが、改めてその記述の部分を紹介させていただいているところでございます。

それから、6ページ目以降、基本的に賛同していただいているご意見が続いてまいります。ちょうどしたご意見、半数以上は基本的に賛同いただいていると認識してございます。6ページ目でございますが、アクティブデータ戦略の部分の考え方につきまして賛同するというようなご意見でございます。それから、ナチュラルユーザインターフェース技術、あるいはリアルコミュニケーション技術といったような部分について賛同というようなご意見でございます。

さらに7ページ目でございますが、従来の戦略推進手法の課題を踏まえた内容になっていること、産業創出というような目的意識が強く打ち出されているというようなことでご賛同いただいております。それから、アクティブコミュニケーション戦略につきまして、基本にご賛同いただいております。我が国のモバイル関連産業の国際競争力が向上する政策を具体化することを希望するというようなご意見でございます。

8ページ目もご賛同いただいているご意見かというふうに考えてございます。詳細は恐縮でございますが、省略させていただきます。

それから、9ページ目でございます。Active ICT JAPANの実現に向けた5つの重点領域について、報告書の趣旨に賛同するというようなご意見をケーブルテレビ会社からちょうだいしておるところでございます。

それから、10ページ目でございますが、これもあわせてご賛同いただいているご意見でございます。

それから、11ページ目までにつきましてもそうでございます。ビッグデータの利活用に関しまして、特に今後の進め方の配慮といたしまして、過度な個人情報保護に陥るのではなく、利活用と保護のバランスに配慮した推進を期待するというようなご意見ござい

ます。それから、データのオープン化、ビッグデータの活用に関する規制・制度改革の促進というような部分につきまして、速やか、かつ着実な推進を期待するというようなご意見でございます。

それから、12ページ目、4K、8Kの確立とこれらが実装された端末・サービスの普及推進ロードマップを早期に策定するための検討体制の整備というようなことで、賛同のご意見をいただいております。

それから、リッチコンテンツ戦略につきましても賛同のご意見を25番、いただいております。

それから、13ページ目でございます。26番目、27番目のご意見につきましても基本にご賛同の意見をちょうだいしております。それから、14ページ目、28番目以降のご意見につきましても、基本的に内容についてご賛同いただいておりますものかと考えてございます。

特に29番目でございますが、法律とICT双方に詳しい人材等、幅広い観点での人材育成が必要と考えるというようなご意見、それから、データの二次利用に関するルール整備、あるいはオープンデータ環境の整備に向けた開発や標準化について、さまざまな関係者の意見を踏まえるような検討の場を設けるべきというご意見でございます。

それから、31番目、従来の施策でICTの利活用が進まなかった理由をしっかりと検証し、その障害を取り除いた上で今後の利活用促進策を検討すべきであるというご意見をちょうだいしております。いずれにしましても、報告書(案)の中である程度カバーさせていただいているところかと思っておりますので、そこをご紹介させていただきます。

それから、15ページ目、32番目のご意見でございますが、我が国のねらうべき姿とActive ICT JAPANの関係ということでございます。この中で特に我が国のねらうべき姿が明確になっていない状況でICTの策定を行うというのは国費の無駄を招きかねないのではないかというご意見、それから、少子高齢化、デジタルデバイド、日本国の人口減少問題に対して、Active ICT JAPANが有効なのかどうかよくわからない部分もあるというご意見でございます。

国費の無駄を招くことのないようにというご意見につきましては、今回の報告書(案)の中でも、プロジェクトの選択と集中あるいはPDCAですとか評価等の実施といったような部分、またそのための体制整備ということにつきましても言及させていただいております。

ますので、その部分をご紹介させていただいております。

それから、16ページ目でございます。ご意見33番、これらの5つの具体的な戦略がばらばらに推進されることのないよう関係者や実行する優先順位等の具体化を深掘りするとともに、PDCAが機能するような評価を行う体制の構築が必要というようなご意見をいただいております。

また、その下、34番目でございます。従来の仕組み・制度の見直しは必須要件ということでございまして、必要となる制度、規制をリストアップして、関係省庁と合同で改善方針を策定して取り組むとともに、その改善内容を広く周知する取り組みを要望するというご要望をちょうだいしているところでございます。こちらにつきましても関連するような報告書の内容の部分につきまして、ご紹介させていただいております。

さらに17ページ目でございます。ご意見35番目でございますが、光サービス提供における競争が機能するよう公正競争環境を十分に整備する必要があるというようなご意見でございます。

それから、ご意見番号36番目でございます。サイバー攻撃に関する反撃に関しても具体的な方策に盛り込むことをご検討いただきたいということでございまして、政府レベルへのサイバー攻撃の撃退に向けた専門組織の立ち上げ、攻撃元の特定と攻撃元の無力化、攻撃元のネットワーク遮断などの対策が考えられますというようなことでございます。

こちらにつきましてサイバー攻撃、セキュリティの関連の部分の記述の中で、国際連携によるサイバー攻撃等の発生を予知、あるいは即応するための技術の研究開発等を挙げさせていただいておりますのでその部分をご紹介しております。

それから、37番目、ベストエフォート制度ということでございまして、プロバイダーの最高速度ではなく最低速度を示すべきだというようなご意見もちょうだいしております。TPOを気にしないようなコミュニケーションできるようなインフラの整備が必要ということを報告書の中で触れてございますので、ご紹介させていただいております。

それから、18ページ目でございます。ICT文化に特有の技術格差問題への取り組みを追加することをご提案いただいておりますのでございまして、こちらにつきましても子どもから高齢者まで対応したICTリテラシーの育成、だれもが安心・安全にICTを活用できる環境を構築といったような方策を報告書の中で挙げてございますので、ご紹介しております。

それから、ご意見39番目、40番目についてでございますが、コンテンツの関連、リ

リッチコンテンツ戦略において、スマートテレビやスマートデバイスを介したサービスビジネスの本格化について無料・有料を問わず既存の事業者が展開する事業との共存が重要と考えますというようなご意見をちょうだいしてございます。それから、周波数全体の一層の有効利用について、関係事業者を含む議論が必要と考えますというご意見をいただいてございまして、これらのご意見につきまして、今後我が国の情報通信政策の検討の上で参考とすることが適当だという対応にさせていただくことでいかがかと思えます。

それから、19ページ目、ご意見41番、42番でございます。サイバー攻撃に対する実践的なプロテクトの要素技術の確立というような記述がございしますが、これに関しまして攻撃耐性の高いクラウドストレージ技術の活用が有効と考えるということで、具体的にこういった文言、攻撃耐性の高いクラウドストレージが組み込まれた防御モデルの構築というようなことを追記してはどうかというようなご意見をちょうだいしているところでございます。

こういったサイバー攻撃に対します防御モデルの構築についてでございますが、今後さまざまな技術的対策ですとか運用手法等による方策を講じるべきであること、さらに今後またいろいろな技術革新等も踏まえる必要がございますので、当初から手段を限定して実施、または特定的手段を限定列挙して記載するということは今回の報告書（案）では適当ではないのではないかというふうに考えられるため、このような対応をさせていただくことでいかがかと考えてございます。

それから、最後42番目でございます。ケーブルテレビ等と連携したリッチコンテンツ流通のためのプラットフォームの早期実現に向けた検討体制の整備という部分につきまして、放送法の規定に基づく基幹放送の普及計画ですとかチャンネルプラン等との整合性に配慮という文言を追加してはどうかというご意見もちょうだいしているところでございます。ご意見のとおり具体的施策の実際の推進に当たりましては、既存法制度等との整合性を図ることがもちろん必要となってまいります。他方、今回の報告書でございますが、ICT戦略の全体的な方向性をお示しするものでもございますので、必ずしもすべての部分につきまして、こういったようなご意見の内容を追加する必要はないのではないかというふうに考えられますので、こういった対応をさせていただくことでいかがかと考えてございます。

以上、ちょうだいいたしましたご意見につきまして、半数以上はサポートティブなご意見だったかと思えます。また、できる限りいただいたご意見につきましては、報告書に反映

をさせていただくというスタンスで対応案のほうをご議論をちょうだいできればということでございます。事務局から以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。それでは、続きまして村上さんのほうから「2020年頃に向けたICT総合戦略（案）」につきまして、ご説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【村上構成員】 それでは、ICT基本戦略ボードから資料11-2を用いまして、前回のこの場でのご議論、そして、今、報告がありましたパブコメを反映したものをご説明させていただきたいと思っております。この変更部分を中心にご説明をさせていただきます。

まずは、表紙ですけれども、メッセージ性の高い副題をつけるようにというご依頼がございました。これにつきまして、「Active JAPAN戦略」という副題をつけております。

Active JAPANで累乗の記号のところにICTという文字が入っております。

この資料の一番最後の30ページ目をお開きいただきたいと思っております。この名称についてですが、二乗とか三乗とかN乗という表現がございますけれども、ICT乗という表現はありません。数学的に存在しません。そのまま英語表現しますと、「Active JAPAN to the ICTth POWER」となるわけですけれども、ICTthという言葉は英語にもないということで、数学的にも英語的にも存在しない表現なのですが、イノベーションを重視するというこの新戦略の特性にかんがみまして、あえてこういう表現にしております。英語表現するとすれば、「Active JAPAN powered by ICT」ということになろうかと思っております。ICTによって、アクティブに活性化されて、何層倍もの力を発揮する日本を実現して、日本を元気にする戦略というような意味合いでございます。

このボードでの検討は13回やりましたが、これまで2000年以来やってまいりました国のICT戦略の検討の仕方からいいますと、e-Japanがu-Japanになって、今度はs-Japanかなと、スマートジャパンかなというような流れの議論がございました。これについては、3分の1ぐらいのところまでそういう結論めいたものが出ておりましたが、このボードの議論はまさにここから本格的に始まりまして、一体ICTで何を実現しようとしているのかという議論をかなり深くやっていただきました。

ICTのインフラ像を示すというこれまでのやり方では十分でなく、どんな日本を実現しようとしているのかを示す必要があります。そこで、利用者中心でアクティブに新たなものをどんどん仕掛けていく日本ということで、Active JAPANということになりました。英語のままにしていますのは、これからのICT戦略で、グローバルでないということは

あり得ないので、日本がグローバルにも仕掛けていくという意味でActive JAPANをそのまま英語表現しております。すべての取り組みの中核にICTが存在するというメッセージがこの中に入っているということでございます。

1ページ目をお開きください。1ページ目は「下げ止まらないICT国際競争力」、「解決されないまま山積していく課題」、「激変するICTのトレンド」という、崖っぷち日本を示す3つのボックスがございますけれども、この構造は基本的に変えておりません。

それから、次の2ページ、3ページは変わっておりません。4ページ目に基本的な考え方が示されているわけですが、ここも基本的には変わっておりません。崖っぷちの日本からの脱出をユーザセントリック、ヒューマンセントリックな利用者起点で動くICT社会の実現、あるいは社会的効率をアクティブを向上させていくICTの社会実装化と、グローバルな側面についてはパッシブ・グローバルがからアクティブ・グローバルへということで、情報資源を利活用した国際競争力からによってアクティブな日本の実現を目指すというこの基本戦略の主要なポイントがここに掲げられております。

次の5ページは、それをパラフレイズしたものですけれども、これについても変えておりません。

それから、6ページ目で5つの重点分野を、アクティブで快適な暮らし、ビッグデータ利活用による社会・経済成長、リッチコンテンツの享受、堅牢・柔軟なICTインフラの構築、世界最高水準のセキュリティの実現、この5つを挙げましたが、この2つ目のビッグデータ利活用による云々というところは経済成長でしたが、社会の成長というのも経済の成長と両輪でということで、社会という言葉をつけ加えております。

次の7ページはいずれもパブコメでいただいたもので修正を行いました。背景の3つ目の四角の高度な防災が可能なところを、防災・減災といたしました。それから、推進の必要性の3つ目のポツのところ、国際競争力を持った高齢社会対応システムという表現だったのですが、少子高齢社会対応システムというふうにパブコメを反映させていただいております。

それから、次の8ページはアクティブデータ戦略に関するところですが、放送業界を中心にしてたくさんいただきましたパブコメを反映させるということと、新美主査、関口構成員、岡村構成員等からいただきました個人情報関連、プライバシー関連のご意見、あるいは村井主査代理、安田主査からいただきましたデータの保存に関するご意見を反映

する形で、背景の3番目と4番目のポイントを加えております。3番目は国、学界や産業界等が保有するビッグデータを融合・連携させ、国民の福祉や利便性の向上に利活用する環境の実現が必要と。また、データの信頼性、匿名性等の確保、個人情報や著作権等の保護のバランスに配慮した利活用のあり方が課題であると。4番目は海外へのデータ資源の流出を回避する等の観点も踏まえ、将来の利活用も見据えた我が国の財産ストックとしてのビッグデータの保存のあり方が課題であるという文章を加えました。

次の9ページから11ページまでは変化がございません。

12ページ目にこれは1枚紙で全体を表現しているわけですが、この後出てくるものを含めて部分的に変えたところがありますが、大きな変化はございません。こも一枚で全体を表現するというようにしております。

それから、13ページ目はHowの部分を集約したのですが、これも基本的な構造、真ん中のICT総合戦略の効果的実施に向けた推進体制の整備が核であるという構造も変えておりません。ただ、その下にございます文章の中で、最後の2行を一昨日開催された基本戦略ボード最終回の議論を反映させまして、「ICT総合戦略が着実かつ効率的に実施されているかどうかについてもフォローアップ」という文言を加えさせていただきました。

同じように14ページで、最初のポツですけれども、ICT展開スキームについて、「新たなICT総合戦略が、政策と一体的に、適切な手法及び体制で着実かつ効率的に推進されているかどうか等について、適時フォローアップを行うことが必要」と。これは基本戦略ボードの一昨日の議論を反映させてつけ加えました。要は戦略をやり切ることが大事であるというところを強調しております。

次の16ページは、最初のポツのところ津田構成員からいただきましたご意見を反映させておりまして、「特に、各戦略の推進に必要な研究開発課題については、多岐にわたる課題があるが、我が国の持つ優位性等も念頭において、検討課題を抽出し、プロジェクトを推進」というふうにしております。

それから、一番たくさん変更しましたのは、17ページの人材のところ。矢入構成員、佐々木構成員の問題提起がありまして、村井主査代理、安田主査等のご意見、たくさんいただきました。それで2行目に「産学官のできるだけ幅広い分野において人材の流動性を確保し」というのを入れさせていただきました。次の3行目の最後から、「また優秀な人材やアイデアが出来るだけ埋没しないよう、ビジネスチャンス等が得やすい環境整備を図ることも重要」とあるという一文を入れております。

また、2番目のポツを新たに加えました。ICT人材の層を厚くするために、オープンなテストベッド等を活用し、プラットフォーム上でのアプリ開発やスモールビジネスの創出等を可能にする環境整備も重要である、としています。

それから、下から2番目のポツに人材を確保・育成を述べておりますけれども、安田主査のご意見で、「確保・育成するため、学会や研究機関等との連携が重要」である文を入れております。

それから、18ページは、グローバル展開方策の導入ですが、下から4番目のポツに吉川構成員からのご意見で、「グローバルな制度間競争や制度間協調を意識しつつ展開方策を検討」というのを加えました。

次の19ページですが、先ほどのパブコメでご意見をいただきましたものを下から2つ目の四角、防災・減災のところですが、下から2番目のボックスの2つ目に、「自治体による、防災・救急関連情報を迅速、円滑かつ確実に伝達するための情報通信基盤の整備を推進」というのをつけ加えております。

20ページは、放送業界やデータ保存に関するご意見を反映させる形で、下から2番目のボックスにデータ資源の蓄積等と、あるいはデータ資源の蓄積に向けた対応という表現をつけ加えました。

21ページは変わっておりません。

22ページは、先ほどのパブコメを反映させる形で、最初のボックスの2番目、あるいは下のボックスの下から4番目等に、これまでは無線LANとだけずっと書いていたのですが、震災以降、その重要性がみなおされております衛星通信を並べて書き入れる必要があるのではないかということで、衛星通信という言葉をも3カ所ほど入れております。

23ページは変わっておりません。

24ページは先ほどの5つの重点領域を左に示し、その重点領域のところは経済成長とともに社会というのを入れました。それから、右側に重点施策を並べております。それを推進体制の整備によってやっていこうという講図は変わっておりません。

今回、パブコメを行ったわけですが、私はいろいろこれまで報告書をまとめてパブコメをいただく経験をしておりますが、今回は、その中で最も賛同意見の多かったパブコメになりました。おそらくこれは、先ほども申しましたが、基本戦略ボードで構成員の皆様が非常に深い議論をしていただいたこと、崖っぷち感を共有して、それぞれのお立場を超えた真剣なご議論を活発にさせていただいたおかげかと思っております。それとそれを最後まで

で粘り強く事務局でフォローしていただきました。この場をかりまして改めて構成員の皆様と事務局に感謝させていただきたいと思います。

具体的にこの議論を絵にしたものを岩浪構成員に作成していただきましたので、説明をお願いしたいと思います。

【岩浪構成員】 それでは、画面を12ページ目に戻していただけますでしょうか。村上座長が今、ざっとご説明された5つの戦略のまとめの紙がこれなんですけど、これが非常に密になっているということと、個別に5つの戦略が黄色いこの矢印に関して、僕が発言したときに、これらの5つの戦略はそれぞれこれを絵にするんじゃなくて、それらトータルを通じて、ユーザの生活がどう変わるかというイメージをわかりやすく説明したほうがいいんじゃないかという発言をした責任をとって、絵を今起こしております。

したがって、最初にご説明しておきますと、5つの戦略ごとの絵とかになっていないんです。それらを含めて、一体ユーザの生活とかどう変わるのかというお話を、よくあるシステム構成図みたいにならないように、ユーザの生活シーンとか利用シーン、その1カットであらわすようなつもりでやっておりますので、皆様から出たいろいろな研究開発項目とかあるいはICTに関する考え方は、バックグラウンドのストーリーあるいは設定には大方盛り込んだつもりでいるんですけども、それらを踏まえて利用シーンという表面に出てきているところだと思ってごらんいただければと思います。

全部説明させていただくと裏側のストーリーも含めてすごく長くなりますので、かいつまんで何点かだけ説明させていただきます。

まず、この25ページ目、1のエンターテインメントの上の段です。これは空間共有アクティブテレビと一応書いております。今からもう10年後ぐらいのテレビは、この彼女が家に帰って来てドアをあけると、まず、よくテレビのイメージの50インチのパネルではもうなくなっているというイメージです。いわゆる待ち受けとか壁紙なんていうのがスマートフォンにありますけれども、全体がまさに空間壁紙になっているみたいなイメージです。これは設定としては、202X年に東京オリンピックをやっている、サッカーの試合をほんとうは見に行きたかったんだけど、彼女は行けなかったという設定なんです。部屋をサッカー中継に切りかえるときに、現地スタジアムに行った友達、あるいは同じく行けなかった友達とかと一緒にこれを見ていると、観戦を楽しんでいますというイメージです。

解説にちょっと詳しい方を連れてきたり、ゲストで招いたりして、いずれにしても、み

んなと一緒に盛り上がる。下にハイタッチとか書いてありますけど、こういったのも触感でちゃんと伝わるといったようなイメージですね。したがって、このとき彼女行けなかったですけど、後であのときこうだったよねと友達と盛り上がるようなことも全く損なうことなしという感じです。

下はちょっと簡単に説明しますが、ゲーミフィケーションなんて言葉はありますが、つらいリハビリとか、あるいは仕事なんかも、ちょっとゲーム感覚で、楽しくやろうぜというようなイメージですね。

次のページをお願いいたします。

生活の中心である家がどう変わるかみたいなお話でこれは書いています。左側、ライフログって書いてありますけれども、ちょっとこれ正確じゃなくて、どっちかというところ、ライフレコーダーみたいな感じで、この家中、いろいろなところにカメラも設置してあって、ほとんどある種のパノプティコン状態になっていますんで、例えば新婚さん家庭ですと、赤ちゃんが生まれてから学校行って入学してみたいなことまで、全部レコーディングしているんで、例えば人生の節目なんか振り返ってみるなんてこともできますよといったようなお話をちょっと想定していますね。

その右上、ちょっと屋上、これは普通の家でもオフィスのビルでも、屋上にグリーン、それからソーラーパネルはもう当たり前というような時代になっているんじゃないかという感じですね。ちょっと右のほう行っていただいて、思い出テレビは、ライフレコーダーの延長ではあるんですけど、若干危険な要素もあるかなとはちょっと思っています。このキッチンのところはよく冷蔵庫の中身が賞味期限が切れたり何なりする、こういうのはもう当たり前として、この先、4枚目あたりにも出てきますけど、近所の八百屋さんとか、三河屋さんともつながっているというところがほんとうは大切なんです。ICTで近所とのリアルライフとつながっているといったストーリーに後ろ側ではなっています。

右下の方は、この頃は電力会社も自由に選べるとか、そういうことになっているだろうと。

左下は、普通に寝ていたり、もちろんのことトイレ行ったり何なり、普通の生活をしていても、ばっちり健康管理されていると、トータル将来、10年後の家はこんななっているんじゃないかというようなイメージです。

次のページをお願いいたします。

もちろん仕事も、非常に大事なことで、ビジネスが変わるということです。上の段から説

明させていただきますけど、出てくるイメージとしては、ほとんどこれはグーグルグラスなんですね、このアクティブ情報インカムというのは。ただ、このページで言いたいのは、このグーグルグラスのところもさることながら、どっちかという、日本人ビジネスマンがリアルタイムの言語翻訳とかあるいは現地行った各国のその生活や習慣の情報だとか、もちろん個別のビジネスの情報だとかというのを日本人のビジネスマンを支援する情報知識インフラみたいなものが日本人の知識基盤としてあって、日本人はいつでもそれにアクセスできるという設定をしております、したがって、日本人はもうどこ行っても、世界中どこ行っても優秀であると。これはビジネスマンにしていますが、若い人がボランティアに行くみたいなのところも、ちゃんとその国家としての情報知識インフラみたいなのがちょっと支援してくれるみたいなイメージをしています。

下のほうの多少のガジェット持っていけばどこでも、地方にいても行楽地でも、これは四万十川にしていますけど、国際的な会議とかそういったものに参加できるよとか、あるいはやはり農業は大事なんですけど、高齢化というようなこともありますので、そこら辺もICTの支援で、このハウスのコントロールから何から、高齢の方でも楽にできるというイメージを右下に添えております。

次のページをお願いいたします。

これはアクティブICTでショッピングが変わると書きましたけれども、イメージとしては、やっぱり地域の商店街をずらっと中ほどにイメージしているつもりなんですね。この仮称でIDタンクと書きましたけど、イメージとしてはちょっと厚めのSuicaカードみたいなもので、どんなスペックかというストレージもさることながら、何がしかのアイデンティフィケーションと、超高速の近接通信みたいな機能を備えているものだと思います。僕の以前のプレゼンの中で、こういうリアルな店舗が全部アマゾンのショールームになってしまって、将来。全部アマゾンとかアップルで買い物をするなんていう話をバッドストーリーとして発言させていただきましたけど、これはその逆です。やっぱりもうコンテンツ、近所の商店街で買おうということですね。したがって、そのいつもの帰り道に本屋さんに寄って、あともう一つ、この絵のメッセージとしては、場所とかあるいは人との接触が尊いというつもりで書いています。やっぱり何かおもしろいのはないかと、本屋のおじさんに聞いて、本を買うとか、あと、その近接通信のリクワイヤメントとしては数秒で映画1本、10秒絶対かからないとすれば、雑誌なんかほんの一瞬ですね、ほんの一瞬で吸い込める。そして、それがかばんの中に置いてあれば、例えばその表示装

置が iPad だろうと、キンドルだろうと、その画面をジャックして楽しめます。しかし、買うのはこの近所のお店である、というイメージです。

というようなことで、いずれにしろ人に勧められて話題の中で何か出てくるなんていうのは、非常にやっぱりこういった本を読んでもみようとか、映画見るという動機になるんだと思っていますので、日立の中川構成員から、エンハンストモビリティというキーワードいただきましたけど、もうほんとそれを地で行くような、ICTがあるからまちへ出歩こうと、外に出ようというイメージですね。

ちょっと左下のほうは、さらにデジタルコンテンツの延長としてですけど、傘の模様をダウンロード購入するとか、この下は、それをさらに高じて服ですね。最初、Tシャツ程度にとどめようかと思っていたんですけど、どんな繊維素材が将来開発されるかわかりませんので、スーツのデザイン買っているイメージです、これは。

次をお願いいたします。

5番目は、やはりまちが変わるということで、これは大都市をイメージしております。さっきの地域の商店街と打って変わって、最初は都市の交通渋滞みたいなものを完全にビッグデータで渋滞も事故も省エネも含めて完全にコントロールみたいなことで考えていたんですけど、もう移動装置というか、車自体変わっているんだろうと。1人が3人の席を空席にして車を走らせている時代でもないんじゃないかもしれないということで、これはコンピューターにして、さらにまちの中心部に行ったらカーシェアリングみたいなイメージにしています。

このようにまちが変わると、この右のほうで高齢の方も面倒でまちに出かけないとか、怖くて行けないなんていう話じゃなくて、何の心配もなくまちに楽に出かけることができるということですね。

右下のほうに行くと、さらにこれ、お買物するときなんかいろいろと支援があったりして、海外にいる孫に何か買ってやろうかみたいなことも、ちょっとそのサングラスかけているおじさん風になっていますけど、これを通じて海外にいる孫と話したりしてとか商品イメージを伝えているんですね。目の前にある服のイメージをそのまま海外の孫に転送してたりするシーンにしていますけど、そんなようなことで、まち自身がこの方が出歩いてものを買ったり何だりするガイドを全体、行っているというイメージにしております。

左下、最後、減災誘導って書きましたけど、あんまり想像したくない未来ですけど、例

例えば首都圏直下型云々なんていう大災害が起こった場合、もちろんその適切に避難誘導等するんですけど、もっとパーソナライズして、例えば体力ある人と足をけがしている人では本来指示違って当然なので、それで最適に避難誘導みたいな情報を送ることによって、減災につなげようと、ちょっとこんなイメージでございます。

簡単にざっとご説明いたしましたけど、以上でございます。

【新美主査】 どうもありがとうございます。

それでは、自由討議に入りたいと思います。ただいまの事務局からの報告及び村上さんと岩浪さんのご報告を前提にご自由にご議論を進めていただきたいと思います。どうぞ、ご自由にご発言ください。

じゃあ、関口さんお願いします。

【関口構成員】 名称の件ですけども、これは何で変えるということになったのでしょうか。

【村上構成員】 はい？

【関口構成員】 最初は Active ICT JAPAN で来ていると思いますし、文中でも Active ICT JAPAN で今も書かれていますので、タイトルだけこういうふうな形に変える必然性があったのでしょうか。変えた新しい名称は非常におしゃれで、私も個人的にはいいと思っていますのですが、メディアの立場で考えると、どう表記したらいいかなと一生懸命考えています。

【村上構成員】 おっしゃると思っていました。おそらくそのままでは、新聞に表記できない表現になってしまいました。もともと Active JAPAN でいきましょうというのが当初のご意見でした。要するに Active JAPAN 戦略とだけいうのでは、ちょっと言い過ぎといたしますか、誇大宣伝にならないかという懸念がございました。要するに ICT 戦略は、ICT にできることしかできないわけですので、戦略名は Active JAPAN だけにするにしても、何か ICT という要素が入っているものにできないかというのは当初からの問題意識でした。最終的には、Active JAPAN にしたいということで、累乗記号部分に ICT を入れる表現にしましたが読み方としては、Active JAPAN と読んでいただきたいということです。ですから、新聞でとりあげていただけるのであれば、Active JAPAN 戦略としていただきたいと思います。ただこの表現は、ICT 戦略としての Active JAPAN 戦略であるということを示しております。こういう経緯でここに至りました。

【関口構成員】 e-Japan 戦略のときもそうでしたが、新聞の場合、なるべく正式名称

で書くようにしています。もちろん文字数があまり多くならなければですが。e-Japanのときはアルファベットでたしかe-Japanとつづったわけですね。今回は片仮名のアクティブジャパン戦略、これが正規名称だという理解でよろしいでしょうか。

【村上構成員】 だと思います。そういうことです。

【関口構成員】 そうすると、このICTの字が小さくある表記は……。

【村上構成員】 これはロゴマークみたいなもの。

【関口構成員】 なるほど、ロゴマークという位置づけで考えればいいわけですね。

【村上構成員】 はい、そうです。

【新美主査】 よろしいでしょうか。それじゃあ、ほかにご意見ございましたらよろしくお願ひします。ほかにございませんか。きょうは最終的なご議論をいただくということですので、できるだけメンバーからご発言をいただければと思います。

どうぞ、近藤さん、よろしくお願ひします。

【近藤構成員】 とてもすばらしいイメージがわいてくるんですが、これからの日本人は家族がいない、結婚していない、子どもがいない方がとても増えてきて、いかに他人を信頼して一緒に生きていけるかということで、お家の中にだれかが訪問してくることが大事だと思います。一生懸命さつき岩浪さんが近所を大事にとおっしゃっていて、ほんとうにそのとおりだと思うんですけども、やっぱり玄関までは歩けるけれども、玄関から外には行けないというお年寄りがこれから激増するんですね。今のお年寄りは3,000万人ぐらいいらっしゃる中で、そのうちの一、二割が施設にいらっしゃるわけですけども、あとはご自宅にいらっしゃるわけですね。

だから、そういう人たちがこれから10年先に、今の団塊の世代の人たちがあと10年たったときに増えると考えたときには、お家にヤクルトお婆さんのような、パソボラおじさんが来て、今、日本のあちこちでそのパソボラおじさんが電球もかえてくれたり、お買物にもつき添ったりしてくれるという他人に支えられながら暮らしていくという、それが新たなシニアの活躍の場にもなるでしょうし、その人たちがICTを活用して、元気なお年寄りが病弱のお年寄りを支えて生きていけるような仕組みというのが、どこかこの絵の中に、何かすごくばら色ではあるんですけど、何かちょっとこう皆さんもうちょっと元気な人ばかりではなくて、元気でない人も心はアクティブなので、そういうイメージも少しどこか入れていただけるとありがたいかなと思いました。以上です。

【新美主査】 いかがでしょうか。今の点は、確かにと思いますけれども。

【村上構成員】 岩浪さん、どうですか。

【岩浪構成員】 まさに今、近藤さんがおっしゃられた、実際にはICTの活用で人と人との接触を増やすみたいなのは、例えば2ページ目の家が変わるところの、近所の三河屋が来るなんていうところにも入れさせていただいたつもりでいるし、最後のまちが変わるなんかも、そこら辺のインフラが整ったがゆえに高齢の方でももう大都会までも楽に行けて安心して買えるというイメージを一応入れ込んだつもりではいます。来週までにこれを仕上げ着色すると、この主人公がだれかみたいなのが少しわかるようになるかと思えますし、いただいた意見をちょっと入れて、じゃなくて……。

【近藤構成員】 いや、私、この25ページのゲーム運動のところというのは、まさに今私たちが一生懸命やっていて、エンターテインメントを変えるというのが一番大事だと思っているんです。

【岩浪構成員】 ここ一応、おばあちゃんなんですね。

【近藤構成員】 そのときに、一人ではできないんですね。だから、このおばあちゃんが登場するために、それをサポートする人が、若い人であれ、シニアの人であれ、一人ではできないんですね。地デジのテレビがどんなに簡単でもやっぱりリモコン使えないんです。字幕放送を見られないんです。だから、それを教えてくれたり、それをそばで支えてくれる人の姿があれば、それが新しい仕事にもなりますし、その人たちが多分、私はキーパーソンになっていくんじゃないかと思います。それは訪問看護婦さんのような人なのか、ヘルパーさんなのか、地域のボランティアなのか、いろいろあると思いますけれども、訪問して高齢者を支える人という人の姿をどこかに、このおばあちゃんの隣になんかこうパネルを持って見せてくれる人とか書いていただけたらうれしいかなと思います。

【岩浪構成員】 了解です。

【新美主査】 じゃあ、よろしくお願いします。ほかにご意見ございましたら、お願いします。どうぞ、よろしくお願いします。

【佐々木構成員】 今のお話若干関連するんですけど、漫画ね、非常にすばらしいんですけどね、同時にちょっと見ていると、若干ガジェットに偏り過ぎかと思います。大事なのは実はガジェットじゃなくて、そのガジェットによって電子機器とか、あるいはサービスによって我々の人間社会、あるいは人と人の関係性とか、あるいは行政政府と国民の関係性であるとか、そういうのがどう変容するかというところのほうが実は重要なんじゃないのかなと。

どうしてもこのイメージになっちゃると、何十年も前から語られているばら色のSF的
未来みたいな話になってしまって、多分、そこが少し誤解される可能性があるんじゃない
かという危惧は感じるんですね。そもそもICTみたいなものがつくる新しい世界という
のは2つの方向性というのがあって、一つがアルゴリズム的な解決であり、もう一つがも
う少し人間的なというか、ソーシャル的な解決であると、それはもちろん両者が融合する
場合もあれば、分離する場合もあるでしょう。今までの日本のICTって、どうしても
アルゴリズム的な話に偏りがちで、そこに実はソーシャル的なもの、あるいは政府と国民
の関係性みたいなものがあまり介在しないというふうに見られた方がすごい多かったと思
うんですよ。

これももう少し話を広げると、この委員会が始まってからずっと考えていて、なぜ日本の
ICTというのはうまく進まないのか。ここ10年ぐらいですね、考えてみると結構、そ
の背景には日本人の技術に対する見方の問題ってあるんじゃないのかと。我々にとっての
技術というのは実は欧米で考えられている技術とは違って、何かもう少しいい言葉見つか
らないんですけど、技能的なもの、例えば江戸時代の職人が細工をつくってました、何か
彫りものをつくってました。その手先の部分だけがある種新しいICTみたいなものに
置きかえられてきてテクノロジー化していくという、要するにその手先の部分の職人芸的
なところがどんどん技術化していくというのが何か日本人にとっての技術なんじゃないか
と。例えば毛筆でものを書いていたのが鉛筆になり、それがボールペンになり、これが最
後エクセルやワードになりましたと。だからいまだに日本人はエクセル、ワードを清書マ
シンに使っているみたいなね。でも、ほんとうはそうじゃなくて、エクセル、ワードの持
っている意味というのは、その情報そのものを構造化されたオブジェクトに変えていくと
いう、すごく根底的な意味があるわけですよ。そこがあまり理解されないので、どう
してもそこが手先の技術を変えるという、そこにいつてしまう。

だから、本来我々にとっての技術というのは、日本人ってガジェットが好きなのもそう
いうところがあると思うんですよ。ガジェットの話ではなくて、我々の技術そのものが社
会の基盤であり、インフラであると、我々の社会の人間関係や何かいろいろな関係性その
ものを変えていくという基盤になっていくんだというようなその強烈な意思がほんとうは
そこに必要なんだけど、そこが結構欠落している部分が多かったんじゃないのかなという
感じはしているんですね。

だから、そういう意味でいうとやっぱり、もちろんこの総合戦略案そのものは僕は非常

に素晴らしいと思うし、今までにない画期的な内容だと思うんですけども、そこを一般の人、国民とかに伝えるという部分においては、もう少しそのガジェット的な話ではなくて、社会の関係性そのものを変えるんだというような意図が込められていたほうがいいんじゃないかなという感じはします。じゃあ、具体的にどうしろというのはよくわからないので、そこは悩ましいのですが、その辺りを考慮していただければなと思いました。

【新美主査】 わかりました。今、佐々木さんのお話は、どちらかというとな近藤さんの話と絡めていくと、ある意味で、人と人とのつながりとか関係性というものも変えざるを得ないし、変えるんだと、それがICTによってさらに促進できるというようなメッセージがあればいいということなんでしょうかね。

【佐々木構成員】 そうですね。

【新美主査】 あと、何かございますか。

【村上構成員】 その辺はおそらくこのビジョンの打ち出し方そのものの問題だと思いますので、ひょっとしたら先ほど出ましたロゴの説明のところにもう少し、佐々木さんがおっしゃったようなところを入れていくということが解なのかとも思います。やはりe-Japan から始まってu-Japan にいって、今度はそういう意味ではActive JAPAN というのは、明らかに戦略の考え方を変えているわけですね。社会とか、その社会との関係性というところに踏み込まないとICT戦略になりませんよというメッセージが入っているわけですので、その辺でうまくできるのかどうかわかりませんが、適切な説明を入れていくということかとも思います。

【新美主査】 まさにそうですね。eからu、そしてアクティブになって、アクティブというのはまさに行動主体をあらわしていますから。

【村上構成員】 はい、そうです。

【新美主査】 eとかuはどちらかというとなテクノロジーのほうに視点がいったという気がしますので、その辺もぜひ最終的にはきちんと訴えていけるようにしていただきたいと思います。ほかにご意見ございましたら、お願いします。

きょうで最後ですので、とにかく皆さんに一言でもご感想でもいいから一言ずついただこうかと思っておりますので、どうぞご遠慮なくご意見いただければと思います。

それじゃあ、どうぞ。

【三膳構成員】 岩浪さんが書いてくださったイラストに対していろいろと意見が出てるのは、実はこれはいいことだと思っています。報告書は、どうしても文字が多くなり

がちなので、実際に具体的なイメージを示すというところでは、こういう一つの方法はあったと思っています。

ただ、僕自身もこれについて完全に賛成というわけではなくて、多分、ガジェットというよりは、もっと社会とかが何か変わるというイメージって、どうやったら伝えられるんだろうという思いは多分ちょっと思ったのはあるんですけど、それを言うんだったら、じゃあ、おまえ書いてみろって言われるんだろうなと思って書けなかったというのが正直なところで、別にこれがゴールですというわけじゃなくて、これはエグザンプルです。なのでほかの人たちは自分の好きな絵を書いて添付していいですよというイメージだと思うので、皆さん思い思いの絵をつくってここに展開していくようなことができれば、これは成功なんじゃないかなと思っていますので、ほかの方も、もしいろんなアイデア等が、絵なり、そのイメージなりで実現できるのであればどんどんやっていただくのがいいかと思いますし、自分もそういうふうを示せるものが何か出せればなというふうに考えています。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。今の三膳さんの意見で、それぞれが絵をかけるんだというのも、これも一つのいい意見だと思います。

ほかにご意見ございますか、どうぞ、久保田さんお願いします。

【久保田構成員】 すごくよくできているイラストで、その前のことが非常にまとまっていると思うんですね。ただ、全部はカバーされていないかもしれないんだけど、さっき岩浪さんが説明されたときに、5つの項目が字でいっぱい出ているものの中の黄色い矢印とおっしゃったんだけど、それを黄色い矢印を絵にするとこうなるのかなと。黄色い矢印というのは多分いろんな実現の仕方があるんだけど、それを5個の例で挙げましたという、多分そういうことだと思うんですね。

人との関係とか、社会との関係といったことも、よく見るとちゃんと出ているんですね。その人との関係というのを、ほんとうに人によっていろんな関係があるだろうから、一つには定まらないんだけど、よく見るとそういうことがちゃんと出ていると思います。

なので、私、一つ提案があるのは、この5枚のイラストに表紙をつけたらどうかと。つまりこれは何なんだと、これは黄色い矢印なんだとか、5行ぐらいの表紙でこのイラストはこういうものかというものがつけられれば、すごくわかりやすくなるんじゃないかなという気がしました。

【新美主査】 これは岩浪さんのほうに、何かありましたらどうぞ。

【岩浪構成員】 今の久保田さんのご意見も含めて、三膳さんとか佐々木さんのご意見なんかももちろん十分に配慮して、何分、来週中というふうにもう言われているので、頑張るだけ頑張ります。ただ、三膳さんや佐々木さんのようなご意見というのは、僕も全く同じ考えなんですね。メッセージとして今回社会実装とか、そういった単語が随分僕も画期的だと思って、すばらしいと思っておるんですけども、ちょっとその絵の説明の冒頭で言いわけさせてもらいましたけど、バックグラウンドストーリーの設定では十分考えているわけです。

ただ、じゃあ、それをユーザの利用シーンの1ショットに起こせと言われるとなかなか苦労します。僕も最初ですね、自分で言うておきながら、ビッグデータってどうやって絵にするのよ？みたいところで相当悩んだんですけど、そういった意味で、バックグラウンドの設定なんかで入れておいて表現としてはどういう形を出すかわかりませんが、そこには……。

【近藤構成員】 コールセンターとか出せばいいんじゃないですか、ビッグデータ……。

【岩浪構成員】 そういう絵だとよくあるシステム構成図っぽくなってしまいうので、そのあたりを気をつけてやっているつもりなんですけど、ちょっとその表現は工夫いたしますが、この1週間できる範囲で頑張ります、以上としか言いません。

【新美主査】 どうぞ。

【久保田構成員】 私が言ったのは、新しい絵をかけというんじゃなくて、5枚をまとめる、1枚の表紙。

【岩浪構成員】 この絵の説明書きですよ。

【久保田構成員】 そう。

【岩浪構成員】 それは久保田さんにおっしゃっていただいたように、あと三膳さんの言い方では、この黄色の矢印のエグザンプルなんですね。この研究開発要素を全部網羅しているのかと言われたら多分、七、八割ぐらい何らかこじつけているつもりでいます。

【新美主査】 これも残された時間、そんなにありませんけれども、ぜひよろしく願いします。

あとほかにご意見ございましたら、よろしく願いします。どうぞ、安田主査、お願いします。

【安田主査】 大変よくできていていいんですけど、ちょっと私、間違ったかなというのは、開発的な環境からいうと、12ページの一番右下の安心・安全というところに、医

療に関する安心・安全がICTでいかに支えられるかというのは入ってたと思っていたんですけど、今見るとないんですね。それで、そののところを何とか1個入れてもらえないかなと思います。

というのは、この絵、大変よくできているんですけど、2枚目、家が変わるというところで、左下に健康管理があつて、その次はすぐ天国になっちゃうんですね。ちょっとその間もうちょっと元気でいられるというのがあつてほしいなという。

【新美主査】 今のは大事ですね。今度、東北地方で医療データが電子化されていくということもありますので、近未来どうなりそうなのかということのもぜひその辺を入れていただくといいかと思います。ほかにご意見ございましたら。どうぞ。

【吉川構成員】 報告書については特段どうのこうのということはないんですけど、先ほどから村上構成員のお話を聞いていまして、e-Japanとかu-Japanのことを触れていらっしゃると思うんですが、多少その辺について言及があつてもいいかなと思いました。例えば1ページなんですけど、悪い話ばかり書いているんですね。ところが過去10年間でそれなりにブロードバンド、今やワイヤレスのブロードバンドも含めて結構普及してきたのかなと。消費者にとってみると、そういうインフラが安価に使えるようになったというのは極めてありがたかったのですが、いまだに海外のキャリアではFTTHを入れるべきかどうかという議論しているところも多いのに比べると、日本はインフラの政策はそれなりに機能してきたのかなと。

それはかつてのe-Japan、u-Japanというのが計画として貢献してきたし、総務省のいろいろなアンバンドル等の政策というのが機能してきたからだと考えられます。しかし、残念ながらものづくりや、ソフトコンテンツというのが追いつかなくて、今、こういう状況に直面しているわけです。その意味では、多少崖っぷち感はもちろん必要なんですけど、かつての政策もそれなりに機能してきたということを言うべきなのかなというふうに思っています。

その上で、日本の、そういう意味でこれを見ていると、総務省が日本のICT産業がうまくいかない全責任を負っているみたいですが、そんなことはなくて、やっぱり個別企業の責任みたいなのがあつて、やや重苦しい感じがするので、多少過去のことも触れたほうがいいのかというふうに思いました。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。貴重な指摘ですね。やはりインフラとしてはきちんと整備されてきていることは前提にして、だからこれが、Active Japanもより積極

的に進めるんだということを出していただけるといいかと思います。

あと、ほかにご意見ございましたらお願いします。

【高橋構成員】 岩浪さん、技術者であられながら、プロのイラストレーター顔負けの技術を。

【岩浪構成員】 もちろん、この絵自体は私が描いたわけではありません。相当唸って指示はしていますけど。。

【高橋構成員】 そうですか、ありがとうございます。このイラストを含めて、Active Japan の戦略案がICT分野にかかわる人以外にどれだけ関心を持ってもらえるかということが非常に大切だと思ひまして、そういう仕掛けだというふうに理解いたしました。この戦略案を見たさまざまな分野の方々から、自分のテリトリーではこんなことができそうだとか、こんなふうにしてもらいたいという声が出てくること、異業種とか異分野間での対話が始まるのではないのでしょうか。私はこの戦略案にそれを大変期待しております。

例えば、先ほどから近藤さんとか、佐々木さんから出ているご意見とも関連するんですけども、例えば高齢者の生活を支えていくところで、昨年秋ぐらいからサービス付き高齢者住宅というプロジェクトを国交省と厚労省のほうで動かして、今、新しい老後の生活の場づくりがされているわけですけど、この戦略はそこにまさに非常に親和性が高いと思うのです。そのプロジェクトに限らず、各省庁からパブリックコメントでなく、ガバメントコメントがいただきたい、そんなふうな戦略案だなというふうに思いました。総務省さんのほうからそういう政府全体に対しての働きかけ、そこからいろいろな専門分野の方とか、国民につながっていくような仕掛けを考えていただければと思います。

【新美主査】 どうもありがとうございます。今のも非常に重要な指摘だと思いますので、ぜひ今後考えていきたいと思ひます。

ほかにご意見ございましたらお願いします。野原さん、よろしくお願いします。

【野原構成員】 ご指名ですので。ICT基本戦略ボードでいろいろ発言をさせていただいて、メンバー全員でつくったアウトプットですので、私としては、これまでに比べても随分と深く検討した、いい戦略になったのではないかと思ひています。

今日改めて村上座長から説明いただいたのを聞いて、さらに改善するとすれば、そのActive Japan ICT 戦略とは呼ばずにActive Japan 戦略と呼ぶという命名ですけれども、それを説明する紙を「はじめに」のような形で一番頭につけるんだと思ひます。名前の説明だけではなく、今、議論のあったような社会とICT とのかかわり、ICT がかわって

いくことによって社会がいかにアクティブになるのかをしっかりと書くことだと思います。

あわせて1点。私はこれまでずっと言い続けてきて、取りまとめにも入れていただいているんですけども、まだ新事業創出戦略が若干希薄だなと思っています。各所にイノベータータイプな環境の重要性や作るための施策を書いているんですが、こうしてアウトプットとして全体を通して見たときに、研究開発戦略に重きがあると感じます。ICT戦略としては今日の議論にもあるように、新事業創出戦略も重要だと思いますので、具体的な提案としては「はじめに」などで戦略の趣旨を書くときに、その部分をしっかりと書き込んでいただけたらと思っています。これだけ充実した議論をしてつくった戦略ですから、これが今後実際に着実に実施されて、成果を上げていくようにしっかりとフォローアップしていきたいと思っています。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。今、新事業としてという視点をもう少しということなんですが、ほかにご意見ございますか。太田さんいかがですか。

【太田構成員】 きょうの絵が出てきて、これはすごいなと思っています。多分次の報告書は是非ビデオつきでやってほしいなと思っています。今回の報告書は国際競争力という議論がもう一つのテーマであり、崖っぷち感の周知についての議論は随分あったものの国際競争力の議論が若干不足していたのではと感じておりました。この絵はまさしく今までの議論でちょっと足りないんじゃないかなと思っていた国際競争力を意識した新しいサービスの提案という部分であり、出てきてよかったなと思っています。

こうした絵にしてみると、実際にこれを見た日本人が自分の将来、ひょっとしたらこういう新しいサービスや、こういう人とのコミュニケーションができるのかもしれないという期待感が醸成されるだろうと確信します。また、これをベースにそのシステムなりサービスを海外に売り込もうとする日本の企業が必ず出てくるだろうと考えます。

残念ながら総務省の立場からすると財政的に、あるいは資金的に新事業を立ち上げるためのサポートをするというのはできないことは十分認識しております。しかし、この報告書の提案のようなかたちで、将来に向けて新しいサービスの傘が広がるということを示すことによって、この絵を見た若者、あるいは我々含めて、この分野に新しいビジネスチャンスが見つけられるというような期待がたくさん醸成される報告書になっているのかなと思います。そういった意味では、岩浪さんには申しわけないですけど、あと二、三枚、絵をつくってくれたらうれしいです。

【新美主査】 ありがとうございます。岩浪さん、何かありますか。

【岩浪構成員】 その場合はぜひともご参加いただきたいなど。

【新美主査】 今、出ましたように、いろいろなことか出てくると思います。新事業ということが出てきましたので、じゃあ、現実には民間の事業者としてどういうふうを考えるか、意見があるかと思しますので、順不同でいきますが、例えばパナソニックをやっている三輪さんいかがですか。

【三輪構成員】 私がパナソニックやっているわけではないんですけど、私もさんざんこの基本戦略ボードの中で発言をさせていただいて、特にやはりこの新規事業をつくるといったときに、その民間企業自身がいろいろ変えなくちゃいけない部分が、きょうも話で出ましたけれども、相当たくさんあるんじゃないかというふうに思っています。まさに一昨日も発言をしていましたけれども、やはり家というものは我々にとって非常に大事な一つの空間になるわけですが、その家を構成している構成員、構成しているその要素というのが、夫婦と子どもとおばあちゃんという、そういう呪縛からあまり離れてなかったりする。

でも、きょう先ほど近藤さんもお話しされていたように、そうでない独居の方というのがすごく増えてくるとか、あるいはシェアハウスが増えてくるとか、そういうような新たな住まい方というものを我々自身もこれはつくっていかなくちゃいけないということをまさに気づかせてもらうような機会になったなというふうに感じています。

いずれにしても、この新たな将来の産業をつくっていかないとほんとうにまずいなという崖っぷち感が出せたというのは、今回は非常にいろいろな気づきを多分この業界にももたらせてくれるのではないかと大期待をしている。ただ、あとはこれをほんとうにちゃんときちんと実行するということですね。それに尽きると思っていますので、それについては、ここにお並びの皆さん、皆さんそれぞれのステークホルダーだと思しますので、よろしく願いいたします。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、今、中身の問題になりますけど、戸井田さんのご意見ございましたら、お願いします。

【戸井田構成員】 私もこのイラストが出てきてやっとなんかしたいのかなというのが具体的に見えてきたなという気がしたんですけども、例えばこういう戦略が一般の中に情報として流れていくときに、その絵で見えるというのはわかりやすくいいなと思います。女性的な視点で言うと、さっき近藤さんおっしゃっていたように、介護と育児、子育てみたいところ、教育ですね。この辺のちょっとイメージがまだ見えてないので、子育てと

か介護とか、女性がどうしても縛られがちな、そういったものがどういうふうにかこれをする
ことでよくなるのかという絵が、今、ビジネスとかまちとかの中にそういった子育て、
教育というのが入っていないので、ちょっとその辺の具体的な絵が見せてもらえるとうれ
しいなど。

あと、5つの戦略というところで12ページのスライド、読み込むとすごくしっかりわ
かるんですけども、ちょっと一般の方たちに情報を流す段階では、このレベルだとまで
難しいのかなという気がしていて、これもできたら何かこういう戦略があるというのを絵
に、絵であって、だからこれができるみたいに、トータルで見られると、だから、政府は
こうやってお金を使っているのねとか、一般の人が納得してくれるのかなという気はしま
した。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、やはりある事業者の立場といいま
すか、そういった観点から鶴田さん、いかがですか。

【鶴田構成員】 戦略またはビジョンとしては、絵まであって、2020年ぐらいに目
指す方向をシェアするという意味でも、非常によくできた提案だと思いますし、ほんとう
に戦略としてはすばらしいものを書いていただいたというふうに思っております。しか
し先ほどからも出ておりますように、e-Japan や、IT戦略本部で、かつてはブロードバ
ンド化ということが出され、実際それが完成したんですけど、この10年、それを何に使
うのかというところがなかったがために、あまり実りがなかったような気がしています。
したがって、今回画期的なソフトウェアやアプリケーションを明確にシェアできた、ある
いは提示できたという意味では非常に大きな成果が出たと思います。ブロードバンドもイ
ンフラとして整えた中でようやく目指す方向が見えてきたという意味では、非常に大きな
進歩だと思います。

ですので、ぜひ2020年に向けて具体的にこれを法律的にもほんとうにこの描かれた
絵の多くを実現するためにどうやって実践していくのかとか、実現していくのか、という、
そういう戦術的な部分をぜひ継続的に、今後考えるような仕組みをお考えいただきたいと
思います。

【新美主査】 ありがとうございます。今、インフラの話が出ましたので、じゃあ、片
山さん、いかがですか。

【片山構成員】 基本戦略ボードに参加をさせていただきまして、非常に私も勉強にな
りました。ありがとうございました。

それで、今、ガジェットの話とか出ましたけれども、私どもの会社もどちらかというとガジェット中心で、あんまり出口についてというのがないんで、今日書かれていた岩浪さんの絵みたいなものをうちの会社の中でつくるなり、あるいは今回を機会に、こういうもののアイデアをいろいろいただいてという風にしなければいけないと思いました。

社会実装という言葉が非常に全面に出て、特に社会実装を目標にする評価基準にするというのがあるんですけども、このところは今まであまりこういうような評価尺度というのがはっきり出てきてはいなかったと思うので、そういう取り組みを自分たちもやりたいと思いますし、ぜひこの延長でやっていただければなと思いました。

それから、最後の絵、非常にわかりやすいんですが、ちょっと気負った言い方をすると、エンターテインメントが変わるじゃなくて、エンターテインメントを変えるというつもりで我々がやらなきゃいけないかなという風に思っています。

それから、本当に細かいんですけども、28ページで「アクティブICTでショッピングが変わる」と、ここだけアクティブICTがついているんですけど、(タイトルの記載を)統一されたほうがいいかなと思います。

【岩浪構成員】 すいません。これはまだ打ち合わせしているラフの段階なものでして、申しわけございません。そこら辺は全部精査いたします。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃ、弓削さんいかがでしょうか。

【弓削構成員】 岩浪さんから前回、もう皆さんおっしゃっていますけど、ユーザから見るというご提案があって、それを絵にまでしていただいたということで、非常に敬意を表したいと思います。私は何もできないので、1枚加えるといったことはあんまり申し上げるつもりはないんですが、全体としてちょっと今さらという感じがあるかもしれないんですけども、私、若干違和感というか、森川先生に申し訳ないんですが、ビッグデータという言葉がちょっと特別扱いされているということには若干の違和感がないでもないです。というのは前回もちょっと議論ありましたけれども、やはりビッグデータの次みたいなものはどうするのかとか、そういったものをどうやって生み出していくのかといったことを、やはり人口に膾炙するようなバズワードというのは、最近アメリカ発でずっと来ているわけですね。ですから、そういったものを日本で次に何を生み出していくのかというところについては、やはりもっと力を入れていく必要があるんじゃないかなと。それは人材面かもしれないし、国がそもそもやることではないという意見も当然あるんだろうと思うんですね。ですから、国は競争を促進すると、私、パブリックコメントでも申し上げ

ていますけれども、競争という形でそういったものを支援していくのか、とにかくその崖っぷちだから競争はどうでもよくて、とにかく力を入れるんだと、みんなある方向に走ればいいんだということでは必ずしもないと思いますので、その辺、今後のフォローということではいろいろと検討いただければと思います。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、野村さん、ご意見があったらお願いします。

【野村構成員】 そうですね。随分回数を重ねてこの基本戦略ボードで議論してきて、ようやくこういう形になってきたということで、ほんとうに座長や事務局の皆様には感謝を申し上げたいと思います。

それで、先ほど鶴田構成員からお話しありましたとおり、一昨日開催された基本戦略ボードの議論でも、戦略をこうやって打ち出せたので、あとは戦術が大切だよねと、そのような話になりました。その戦術ということですが、おそらくICTに関する方々だけではなくて、先ほど近藤構成員や高橋構成員からお話しありましたように、ICTを使って何かを変えることができる、そういう活動をされている方々、あるいはガバメントコメントのように、いろんな省庁が関係することなので、政府の横断的な取り組み、そこから辺が重要になってくるのかなと思っております。そうしますと、このペーパー自体がやはり多くの人々の目にさらされて、賛同ばかりだけではなくて、批判も受けるような、そのような状況にするのが、これからの戦術を考え、具体的な成果に結びつけていく上では非常に大切だと思っております。

実は、先日学生と話をする機会がありまして、そのときに言われて、「はっ」と思ったのですが、今までのe-Japan戦略にしても、u-Japan戦略にしても、こういうものがあつたというのはホームページを見ればわかるんだけど、それが実際にどのような成果を上げて、次にどのような、次段階の政策につながっていったかというのが、ホームページを見ても全然わからないという指摘をもらいました。

やっぱり、一つこういうものをつくったらそれで終わりではなくて、それをどうやって皆さんに、国民全体に見せていくか、あるいはその中での取り組みのプロセスというものを具体的に知ってもらって、さらにそれに対し意見をもらえるような、そういう仕組みを何か考えていく必要があるのかなと思ってます。次の行動につなげる際の基本的な考え方に取り入れるために、より多くの人にこのペーパーを見せて賛同や批判を受けていく、そのための仕組みづくりを工夫していただけたらと思ってます。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃ、次に津田さん、ご意見をお願いします。

【津田構成員】 私のほうは感想のほうで述べさせていただきます。

今回のこのご提案で特徴的なところは、今までのこういう議論というのはどうしても技術面が主役になっていて、どういう技術をどういうところやましようというような報告が多かったんですけども、今回特徴的なのは、ユーザの視点、あるいはICTでサポートされる人たちの視点というのがかなり色濃く出ている。その辺が岩浪さんが書いていただいたイラストの中にもはっきり出ているということで、非常にやっぱり新しい見方で物事を進めていかないといけないというところは色濃く出ている、非常によくまとまった案ではないかと思えます。ほんとうに基本戦略ボードの皆様に深く感謝したいと思えます。

ただ、もう一つ、これは今後のほうが問題で、今まで意見がありましたけれども、社会実装ということを目指していく、そうすると、社会実装をやるためには、ほんとうにトータルなプランニングをやっておかないと、この中に書いてあった技術をつくりましたというだけでは実装できない。広い立場でトータルのプランニングというのを着実に進めていかなないとなかなか実装できないので、そのあたり、今後ほんとうにどうやって実装をできるのかというあたりの議論、これをきちんとやっていくのが重要じゃないかと思えます。それをやっていってほんとうに実装できれば、国民の皆さんにも目に見えるような形で成果という形で感じてもらえるんじゃないかと思えますので、ぜひ今後のアクティビティーについて継続して強化していただければなと思っております。よろしく願いいたします。

【新美主査】 ありがとうございます。それでは、続きまして神門さん、お願いいたします。

【神門構成員】 とてもよくまとまっていると思えました。ここにいる皆さんがおっしゃっているように、このイラストがあるということがより多くの方に見ていただきたいというそのメッセージとしても大変重要で、こういった具体的なものがあることによって、それに対する意見とか批判とか賛同だけではなくて、議論が生まれやすくなるのではないかということで大変よく思いました。

あと津田委員、高橋委員、村井委員がおっしゃっていたことと重複しますけれども、これ、せっかくよいものができたので、なるべくいろいろなセクターの、そしてまたほかの省庁の方々にも積極的に発信をして、社会実装に向けては総務省だけではなく、ほかの省庁との連携、社会のいろいろなセクターとの連携ということが必要不可欠だと思いますので、そうした体制に向けてぜひご努力いただければと思います。

【新美主査】 ありがとうございます。

それでは続きまして、富永さん、ご意見いただけますでしょうか。

【富永構成員】 私もこの報告書、非常にすばらしいものができたと思っております。皆さんがおっしゃっておられますように、今後いかにより幅広い層にアクションを起こしてもらう Active JAPAN 戦略にするかということが重要ではないかと思っております。

去年の7月24日を目指して地デジ化が国民運動のような形で行われましたけれども、今回のICT戦略の中から、全体でもいいですし、もう少しピンポイントに絞ったものでもいいですし、何かいろいろな方々を巻き込んで一緒になってやっていく、盛り上げてやっていくというような工夫が必要ではないかと思っております。私ども、国の研究開発機関でございますけれども、Active JAPAN 戦略を支えられるような研究開発を推進していきたいと思っております。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、続きまして、上條さん、お願いします。

【上條構成員】 まず、こちら、このようなすばらしい報告書をまとめてご尽力いただいた基本戦略ボードの皆様、それから、事務局の皆様にもまず敬意を表したいと思います。

私、大学院や社会人大学院で人材育成に当たったり、ふだん大学で18歳から22歳の学部生の学生さんと接しているという立場から考えますと、2020年に社会の中心にご活躍いただく30歳、40歳になる方々というのはまさに今二十歳、そのような学生のお子さんたちでございます。このような非常にわかりやすいピクチャーも示していただきましたので、皆様のご発言と重複はいたしますが、今の若い世代の方たちにもぜひこのActive JAPAN、キャンペーンというわけではございませんが、地デジカがいたように、若い方にも関心を持っていただけるような何かわかりやすい示し方というのをぜひ今後考えていただければなということが一つございます。

それから、やはり Active JAPAN という、そのアクティブという言葉が私も非常に心に響いておまして、テクノロジー中心でもなく、また、どこか国民一人一人が、お国が、政府の方が決めてくださっていることという受け身の姿勢で、どこか人ごとのように聞いていた部分というのがあると思うんですが、アクティブという言葉で、自分が一人一人主人公になって、この Active JAPAN の戦略に自分がどうかかわっていくかを具体的なイメージを持っていただいて参画いただくということが出来る可能性が広がるのではないかなというふうに非常に可能性を感じております。

それから、やはり新規事業創出、今、私自身が若い20代、30代の世代が新しいビジネスを興したいという若い方たちの知的財産、知財の保護の観点から、知財の活用という観点から、事業創造を行おうとしている若い方たちのサポートをしているんですが、なかなかベンチャーを立ち上げた場合に非常にリスクをとらなければいけないということで、若い方たちが勇気を持ってビジネスを立ち上げるということなかなかできない壁にぶつかっていらっしやいます。

ですので、そういったまだ、先ほどトータルな案をといるお話がありましたが、いろいろと死の谷と呼ばれるようなものもたくさんございまして、そこに対して具体的にどのようなサポートをしていくか、もしくはどういった具体的な戦略を、戦術を考えていくかというところはまだまだ、非常にすばらしい戦略だとは思いますが、考えていかなければいけないところは多々あると思いますので、ぜひそれを、私どもも含めて一緒に考えていければなということがございます。

最後に、今、知的財産戦略本部の会議のほうでも、国際標準化のタスクフォースというものに参画しておりまして、例えば各省庁間の皆様に一つの技術の標準化をどう進めるかということで、官の方、民の方、各省庁の方全員が一つのテーブルについて、一つの技術の標準化をどうつくっていくかということにディスカッションしておりまして、そういった場におりますと、やはりこういったすばらしい案を考えられた内容を、例えば人材育成のところは非常に大事だと思うのですが、例えば文科省の方や大学の方とのディスカッションというのをもっともっと進めていく必要があると思いますので、そういったディスカッションの場というのもぜひ今後設けていただければなというふうに思っております。以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、平田さん、ご意見をお願いします。

【平田構成員】 平田でございます。報告書を拝見させていただき、ほんとうによくできており、私自身、メンバーでありながら大変勉強させていただいき、まず感謝を申し上げます。ほんとうにこれは秀逸の報告書じゃないかなというふうに感じております。

コメントですが、本文13ページの「Active ICT JAPAN」実現に向けた5つのHow、これも非常によくまとまっており、特に推進体制の整備の件の中で、フォローアップが大切であるということを追記されたのはぜひ必要だと考えます。さらにフォローアップだけじゃなくて、途中の段階をどういうふうにチェックしていくかというのが今後非常に重要だ

と感じております。

この資料そのものは、わが国のいろいろな関係の方々が読めると同時に、世界じゅうの人がこれを読めるわけでございまして、そういう意味ではこの資料をつくったのがあくまで出発点でなきゃいけないと考えます。特に世界のいろいろな国々がこれをベースにいろいろなことをされるんじゃないかなというふうに感じておりまして、こんないい資料を世界じゅうにそのまま発信していいのかどうかというふうに率直に感じているところでございまして、そういう意味では、やはりこれからこれをどう実行するかとか、特にスピード感をもってやらないと、何のためにこの資料をつくったのか、世界の関係者の皆さんに教科書を配布しただけではもったいない。特に国際戦略、競争力の強化という点からぜひしっかりと実行していただきたい。

そして、追加ですけれども、研究開発、特に政府系の研究にも参加させていただいているわけですが、やはり今回、社会展開とか、社会実装性とか、そういう点が重要であるということは重々私どもも認識いたしておりますが、まだまだそれが、それぞれの研究者のところにも浸透していないんじゃないかなと感じています。私どもはこういった社会実装性ということについても、これからしっかりとやっていきたいというふうに思っている次第でございます。

もう1点、人材育成の件ですが、いろんところで人材育成が出ているんですけれども、なかなかほんとうに報告書、いろいろなところのご指摘がそのまま実行に移しているかどうかというところは必ずしも十分じゃないところも多いんじゃないかなと思います。特にICTという視点から見たときには、これからどういう人材が必要かということで、やはり例えばソフトウェアとかそういったところのもっと基礎知識をしっかりと身につけるような仕組みをつくることも重要だと感じています、そういった点につきましても、ぜひこの報告書が単なる報告書で終わるのではなく、大学とか、ほかの省庁にも働きかけることをしっかりとやっていただければありがたいと思います。

以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。それでは、続きまして、森川さん、ご意見を願います。

【森川構成員】 戦略ボードとかアドホック等で多くの方々と多くの時間をお話しさせていただきまして、私自身もとてもいろいろと勉強させていただきました。

その中で、やっぱり印象に残っているのは、連続・非連続の議論でございまして、新し

い産業、新しい事業を興すには、やっぱり連続的なものも重要だ、いや非連続的なものが重要だといったようなバトルがなされていたのが非常に印象的だと思っておりました。

私自身はやっぱり両方だろうなと思ってまして、連続の方はいわゆる社会基盤、社会実装、課題解決型みたいなものをしっかりと着実にM2Mみたいなものでやっていく。それに対して非連続なものはスマートテレビとか、ソーシャルとか、やっぱりぶっ飛んだ系というんですかね、おもしろい、とてもユニークな新しい経験を提供するようなサービスを若い人たちから生み出していただくといった形で、それぞれやっぱりバランスをとってやっていかないといけないなというふうに思いました。

そういうことを考えていくと、やはりほかの皆さんもおっしゃられていますけれども、これからが大切なんだろうなというふうに思っていて、今回の報告書ではいろいろな項目がリストアップされておりますが、それぞれ多分推進していくやり方はそれぞれ異なっていくのではと思っています。例えば社会実装系とか、課題解決型に関していうと、フィールドをしっかりと提供していくようなサポートとか、あるいはほかの方々もおっしゃられましたけれども、やっぱり大学の人たち、研究者、技術者の意識を変えていかないといけないとも思いますし、さらにはビジネスとして考えていくと、やっぱり海外展開というものをしっかりと国がやっていかなければいけないと。そのような推進方策というか、背中を押していくような仕組みが必要なんだろうというふうに思います。これに対して、スマートテレビとかソーシャルとか、そういう新しめのものは、とにかく若い人たちのいろんなアイデアを吸い上げていくような場が重要なのかなと思っています、おそらく旗を振って、こっち行こうなんていうことをやるような雰囲気ではないと思いますので、やはりそれはそれで、それに応じた背中を押していくような仕組みづくりを考えていかなければいけないといったように思います。

いずれにしても、この報告書ではいろいろな項目がリストアップされていますので、それをしっかりと一つ一つやっていくときには、それぞれのやり方、あるいはそれぞれの方策を、これから考えながらぜひやっていただければというふうに考えております。以上です。

【新美主査】 ありがとうございます。それじゃあ、荒川主査代理、よろしく願います。

【荒川主査代理】 今日の報告は大変よくまとまって、日本の明るい未来を示して大変すばらしいと思いますが、既にご意見いろいろ出ていますように、あとはこれをどうやっ

て実現するかですね、そこに一山あると思います。特に人材育成は、比較的言うのはやさしいんですけど、実現するのはなかなか大変で、私は、やはり日本がなぜこれだけ高度なICT技術を持っているのに十分利活用されないかという、日本ぐらい理系人間と文系人間が分かれている国というのは、国際的にないのです。もうこれは受験のときから、あなたは理系、あなたは文系というように分けられていて、大学行ってもそうで、就職も理系用就職、文系用就職というのがあるぐらいで、もう完全に分かれています。

欧米なんかは、理系の人でも文系の素養がありますし、文系の人でも理系のことに興味を持っているということで、もうそこから変えるとなると結構至難の技です。きょうのパブリックコメントにもありましたように、法律とICT、両方に詳しい人材を育てようとなりますと、やっぱり大学でもそういうある程度文理融合型の学科というのが要求されてくるんですけど、そうすると、そういう学科だと受験生集まらないんじゃないかとか、就職先がないんじゃないかと言われて、結構トラブルに巻き込まれてしまうわけですね。

ということで、かなり早いうちから、すなわち小学校、中学校、高校の早いうちからあまり文系、理系を分けなくて、両方をトータルに興味を持つという、そういう教育が必要なのじゃないかなと思います。

また、文系、理系と分かれているだけでなく、理系の中もさらに細かく分かれています。特にビッグデータを解析する解析者について、以前、森川先生の報告にありましたように、アメリカでは、数学をマスターした人がそのような情報技術の分野に進むということで、理系の中でもやはり分野を超えた教育を大学で行っていくような、教育方法の転換というのが必要なのではないかと思いました。

【新美主査】 ありがとうございます。安田先生、何かございますか。よろしいですか。

それじゃあ、一通りご意見伺ったところですが、あとお一方、何か。

はい、どうぞ、関口さん。

【関口構成員】 意見ではなくて、ちょっと非常に細かいことで申しわけないのですが、冒頭に出てくるので、ちょっと気になった点を1つ申し上げると、最初のところの、「下げ止まらないICT国際競争力」という1ページ目にランキングが出ています。ICT競争力ランキングは18位ということで、これは世界経済フォーラム（WEF）のICT競争力レディネスランキングだと思いますが、国際競争力指標のほうは多分、スイスのIMDの国際競争力報告の中の技術評価のところをとって25位としていると思うんです

ね。しかし、国際競争力とぼんと出てくると、IMDか世界経済フォーラムの国際競争力ランキングがのほうに頭に思い浮かびます。そうしますと、世界経済フォーラムのほうは日本は9位ですし、IMDのほうは日本は去年26位で、今年5月の最新報告では27位に落ちています。資料にある25位というのはあまり一般的に使われてない数字なので、これが出てくると間違っているんじゃないかなという印象を与えかねません。ここのところはきちんと説明してやるか、ICTの技術分野の国際競争力ランキングだということをはっきり示す必要があるのではないかと思います。

【新美主査】 どうも貴重な指摘ありがとうございます。よろしいでしょうか。

【岩浪構成員】 イラストに関してはどうか、このビジュアルイメージに関しても皆さんいろいろとご意見いただいたんで、冒頭というか、1時間前までは締め切りのことが頭にありましたので、どちらかという国防戦一方の発言していたんですけど、この1時間で考え方をアップデートいたしました。

これは、こういうビジュアルイメージがいるんじゃないかといったお話をしたわけですが、皆様からいろいろと突っ込んでいただいて、もっとこんなシーンがいけるとか、あるいは太田さんのお話じゃないですけど、じゃあどこかのベンチャーが見たら、おれだったらこうするとかっていう、そういうその突っ込まれる対象としては、やっぱりこういうビジュアルイメージがあるとわかりやすいんだなというのを逆に改めて実感いたしました。半ば突っ込まれる余地を残した、本当に初のソーシャルな報告書になるんじゃないかなろうかと思えます。

憎しみとか反発は愛の一種で、愛の反対というのは無関心であるという言葉がありますけど、まさにこのように多くの方の関心と呼ぶネタとしてこのビジュアルイメージは一つの役割は果たせたのかもしれないというふうにちょっと思っております。(笑)

最後に全体の感想ですけど、森川先生がおっしゃったその連続・非連続の議論というのは、僕もほんとうにすごく印象に残ったんですね。僕はほぼ完全な非連続派だったんですけど、そうでない方のお話というのは、ある意味新鮮には聞いたんですが、じゃあ、それらをうまくまとめていただいたんだとしたら、先ほど、野村構成員がおっしゃった、この後の戦術が大事であるというお話、それから、野原さんがこの間言っていた、方法論の改革というのが大事だというお話をされたんですけど、僕もそのご意見に全く賛成です。

この報告書は全体の方向性を示されたと思うんですけど、実際これの実施する工程ですね、これが非常に大事なんじゃないかという感想持ちました。以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。

活発なご議論いただいて、まだ議論は尽きないところかもしれませんが、時間もございますので、最後に、村上先生何かありますか。

【村上構成員】 今日最終的な報告をさせていただいて、もう、私は、お役ご免かと思っておりますら、まだ1ページつくらなければいけないみたいで、ちょっと気が重いのですが、これまでいただいたいろいろなご意見で、何とか1ページ目はつくれそうだなという、自信がついてきているところです。

その中に皆様のご意見すべて吸収できればと思っておりますけれども、一つ大事なご発言だと思いましたのは、太田構成員、平田構成員から、国際競争力を意識したものですよというご発言があり、まさに我が意を得たりと思っております。e-Japan から u-Japan に来て、日本にはICT環境としては世界に誇れるものができたというふうに思うんですが、ユビキタスネットワーク化を光ファイバーと携帯でやれたと思ったら、最後にスマホとかiPadが出てきて、がらっとシーンが変わってしまいました。それが現在の日本のICT産業の強い閉塞感の原因になっていると思っております。今回、この戦略案でお示したのは、今の状況では、ICTの世界は、全くまだ不完全な状況でまだまだこれからやらなければならないことがあるということです。ICTの分野のイノベーションというのは、まさにこれから始まるんですよということです。その具体的な絵のほんの一部がこの5枚の絵なわけですが、これから日本のICTのイノベーションというものが始まるというメッセージが国際的にも伝われば良いのではないかと思います。それをまねしてもらわないわけ、むしろ、ちょっと元気がないと思われる日本のICTのイメージの転換点になればというふうに思います。以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。非常に議論を活発に戦わせていただいて、最後は次のステップどうするのかと。戦略から戦術へと、あるいは方法論という話になってきているかと思えます。非常に大事なご指摘だと思います。長い間、皆さんに盛んに議論していただいたのをどう生かすかというのが大きな課題だろうというふうに感じております。

この前ちょっと見ましたら、政府のグリーン成長戦略の中の大きな柱に、再生エネルギーと高性能の住宅というのが出ていますが、ICTがどう絡むかというのはその中に全然出てきていないんですね。実はそれを実現するためには、ICTが非常に有用だと、有効だというふうに私は感じておりますので、ぜひ総務省の事務局の方は政府のそのグリーン成長戦略の中にうまくビルトインするような、その働きかけをぜひしていただきたい

し、そうしないと、まさにパワードされないものになっちゃいますので、ぜひそれを意識的にやっていたらなというふうに思いました。

本日のご議論も非常に活発でございましたが、おおむねこの報告書を是として、今後の方法論、次のステップをどうするかというご意見が多かったと思います。今、いただいたご意見を踏まえて、資料を修正して、両委員会の報告書として取りまとめて、情報通信政策部会に報告したいというふうに考えております。

この情報通信政策部会に報告する資料につきましては、主査である私にご一任いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございます。そのように進めてまいりたいと思います。

この報告書の取りまとめに当たりまして、基本戦略ボードの村上座長をはじめとして、関係の皆様方に大変なご尽力をいただきました。心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

(拍手)

それでは、最後に事務局からご案内がございましたらお願いします。

【中村融合戦略企画官】 今後の進め方についてでございます。先ほど新美主査のほうからございましたとおり、本日いただきましたご意見を資料のほうに反映させていただいた後、来週ございます情報通信政策部会のほうに新美主査からご報告いただくことを予定してございます。報告資料、またその部会の議論の状況等につきましては、また適宜皆様にもフィードバックをさせていただければというふうに考えてございます。事務局からは以上でございます。

【新美主査】 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、第11回の会合を終了とさせていただきます。お忙しい中、ほんとうにありがとうございました。これにて解散といたします。

以上